



昨年度も学校訪問でお世話になり、ありがとうございました。一緒に考えさせていただいたことには、多くの学校でも課題解決へのヒントや参考になることがたくさんありました。話題になったことや教えていただいたことから、教職員の皆さんの元気の素になるような話を、Q&Aの形式で隔月に掲載していきます。教職員の皆様に一读いただければと思います。

子どもが意欲的になる授業 ～授業から^{あくび}欠伸をなくしたい～

「先生、今日の授業は時間が短く感じた」と子どもたちが言ってくれるような授業をめざして努力しています。子どもが意欲的に取り組む授業をつくるために大事なことは何でしょうか。

ゴール設定から授業をつくると、
授業の流れがぶれないですね。



単元や教材によって、いろいろな授業の形があると思います。毎回ではなくても、串団子のイメージで挑戦してください。

授業の研究では、いろいろなポイントが見つかりますね。

- ・表情を豊かに、聞きやすい大きさと速さの声で
- ・課題を日常生活に結びつけて興味づけを
- ・短時間の活動をいくつか組み合わせて集中させる
- ・教師とのやり取りでなく、子ども同士のつながりをつくる
- ・思考が多様に広がるような課題や発問を工夫する
- ・褒め言葉を！ 授業のねらいに添った評価言を 等

どれも大切なことですが、いきなりあれもこれもとはいかないですね。若い先生は、モデルになる授業をたくさん参観して授業のイメージを高めていくことが大事だと思います。

授業には多くの要素がありますが、最も大事なことを1つだけあげるとすれば何でしょうか？

参観させていただいて、子どもが集中している授業には共通点があるように感じました。それは、「めあて」から「ふりかえり」までが一貫しているということです。

まず「めあて」で、授業の課題や課題解決への見通しを持つ。次に「めあて」にそって、子どもが活動して解決を試みる。最後に「ふりかえり」で、「めあて」が実現できたかを確認する。そのように構成がぶれていない授業は、子どもの集中度が高いようです。あれもこれもやろうとして枝道や脇道が多い授業や先生の説明が主体の授業は、子どもたちの意欲が低くなるようでした。

ねらいをしぼって、「めあて」から「ふりかえり」までが串団子のように一貫しているイメージで授業をつくってみてはどうでしょうか。

ポイント

ねらいをしぼり、「めあて」と「ふりかえり」がつながるように、ぶれない流れの授業をつくる。その中で、子どもたち自身が活動して、発見・達成をしていく展開を考える。

いつも宿題をしてこない子 ～指導するか、支援するか～

いつも宿題を忘れてくる子がいます。昼休みや放課後に宿題をさせて学習習慣をつけようとしているのですが、効果がありません。どのように指導すればよいのでしょうか。



できるようになってほしいという先生の気持ちが伝わってきます。子どもには、何か理由があるのでしょうか。

- ・子どもに意欲がない、がまんする力が育っていない
- ・家庭で机に向かう習慣がない
- ・安心して取り組める家庭環境ではない
- ・LD（学習障害）等、学習することに困難さがある

励まして、実行させて、その子なりにできたことを評価して、力を伸ばせる子どもが多いと思います。しかし、本人も努力のしようがない背景がある子どももいます。

深夜まで保護者を待っていたり、家族への緊張を強いられたりする環境であれば、努力する気持ちでいることが子どもには難しいでしょう。幼い弟妹の世話をするヤングケアラーの状況をお聞きすることもあります。

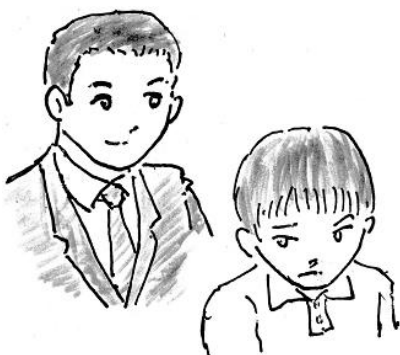
文字が動いたりねじれたり感じるディスレクシアの出現率は、日本では4.5%といわれます。(2013年 内閣府「障害者白書」)

知的に問題がないため、周囲も本人も特性を発見しにくいです。周囲の人が普通にできていることが自分にはできないことを、自分の努力不足と考え、自分が困っていることさえ説明できないままだいることが多いようです。

《 ディスレクシアの感じ方の一例 》



NHK HP 健康チャンネル
子どもの発達障害「限局性学習症
(SLD)・学習障害(LD)」とは



いつも同じ子どもが宿題をやってこない場合、一度その子の目線で考えてみてはどうでしょうか。「何か困っていることはない？」の問いかけに、「宿題が嫌い」としか応えないかもしれません、「なぜ嫌いなのか」重ねて尋ねていくうちにその子の背景が見えてくるかもしれませんね。

何より、「先生(大人)が私の話を聞いてくれた」という経験の積み重ねが、自尊感情を守り、人に助けを求める力を育てていきます。困り感をわかってくれる先生がいることは、その後もその子が自分を大切に思える根拠になるでしょう。

いつも必ず忘れ物をするような子どもも、なぜ忘れるのか同様に気になりますね。

ポイント

時間や場所を与えれば努力できる子どもがいれば、できない背景がある子どももいる。子どもと対話を重ねながら、困り感に寄り添って必要な支援の検討を。先生も、一人で抱えないで、相談してください。